



官祿集
全

73
6220





73
6880
卷



一 備母



去五味均平蔵

親戚の子は先づ父くばすと
備母

父事と不察なり、妾性の子

如きは先父くばすと備母

は父くばすと子くばると父

くばすと備母とくばると

妾性の子は先父くばすと

父事と不察なり、妾性の子

如きは先父くばすと備母

は父くばすと子くばると父

くばすと備母とくばると

妾性の子は先父くばすと

父事と不察なり、妾性の子

如きは先父くばすと備母

は父くばすと子くばると父

くばすと備母とくばると

右親戚の子の情は備母

くばると父くばると

一 妾懐の子を父嫡母に
出母と定所と云々
三月下流し母を
懐志出所實く
智中流し出子
身一嫡母の子に
小たかしくと文
石小口一但能
乳一懐志云々
系中

妾懐の子嫡母に
出母と定所の
方親乳いつ
或は出所とい

嫡母と出母と定所
嫡母と出母と定所
出母と定所と
妾懐の子を父
の子から
或は出母とい

嫡母と出母と定所
妾懐の子を父
出母と定所と
中定所とい
月長流し
石出母とい
或は出母とい

一 妻母之妻とて其母の如
死云々解

妻方之親に其子親に
去云我の親に其子親に
之の親に其子親に
女方之親に其子親に
親に其子親に
我は其子親に
不及所法

一 父之徳母父之徳母
父嘉徳子之徳母
子之徳母子之徳母
母之徳母子之徳母
子之徳母子之徳母
子之徳母子之徳母

一 親の親長とて唯一の
母之徳母子之徳母

一 妻母毎母の徳母子
母之徳母子之徳母

一 妻父之妻母之徳母子
母之徳母子之徳母

一 妻母之徳母子之徳母
母之徳母子之徳母

母及父の親交の妻と家
のちのちの他母の徳を
あがけ

一 母の親交を減るは
子に母の徳を減るは
いふ

母の親交を減るは
先んじて子の徳を
減るは父の徳の子に
減るは徳を減るは
妻の徳の子に減るは
いふ

一 親交の徳を減るは
徳を減るは徳を減るは
徳を減るは徳を減るは
徳を減るは徳を減るは
徳を減るは徳を減るは

一 母の親交を減るは
徳を減るは徳を減るは
徳を減るは徳を減るは
徳を減るは徳を減るは
徳を減るは徳を減るは

一 母の親交を減るは
徳を減るは徳を減るは
徳を減るは徳を減るは
徳を減るは徳を減るは
徳を減るは徳を減るは

留如或性也
よこし

實地表方
細細方

實地不減
性忌之

實地不減
性忌之

實地不減
性忌之

實地不減
性忌之

實地不減
性忌之

實地不減
性忌之

實地不減
性忌之

一 實地不減
性忌之

一 實地不減
性忌之

一 實地不減
性忌之

一 實地不減
性忌之

一 實地不減
性忌之

一 實地不減
性忌之

一 實地不減
性忌之

一 實地不減
性忌之

一 實地不減
性忌之

一 實地不減
性忌之

一 實地不減
性忌之

お母の月夜に思ふ

一 母を身とて思ふは子にこそ
父を祖とて思ふは孫にこそ
他を父とて思ふは子にこそ
法不離心とて思ふは心こそ
又信成者こそ思ふは心こそ
他を父とて思ふは子にこそ

一 妻を子とて思ふは父にこそ
父を父とて思ふは子にこそ
母を母とて思ふは子にこそ
又信成者こそ思ふは心こそ

一 母を父とて思ふは子にこそ
父を父とて思ふは子にこそ
母を母とて思ふは子にこそ
又信成者こそ思ふは心こそ

一 母を父とて思ふは子にこそ
父を父とて思ふは子にこそ
母を母とて思ふは子にこそ
又信成者こそ思ふは心こそ

一 母を父とて思ふは子にこそ
父を父とて思ふは子にこそ
母を母とて思ふは子にこそ
又信成者こそ思ふは心こそ

一 母を父とて思ふは子にこそ
父を父とて思ふは子にこそ
母を母とて思ふは子にこそ
又信成者こそ思ふは心こそ

八家方准

一 夫と妻は元来夫婦なり
妻は夫の身なり夫は妻の親
なり夫は妻の親なり
夫は妻の親なり
夫は妻の親なり

父は母の親なり
母は父の親なり
或は親なり

一 中と他は元来父子なり
父子は元来父子なり
父子は元来父子なり
父子は元来父子なり
父子は元来父子なり

夫は妻の親なり
妻は夫の親なり
夫は妻の親なり
妻は夫の親なり
夫は妻の親なり

一 如くも父子は元来父子なり
父子は元来父子なり
父子は元来父子なり
父子は元来父子なり
父子は元来父子なり

右は父子の親なり
父子は元来父子なり
父子は元来父子なり
父子は元来父子なり
父子は元来父子なり

子母の法

右の如く女子の者

は成りては母の如く

成りては母の如く

一 女子の母は父の如く

入る年と女は母の如く

母の如く父の如く

父の如く母の如く

ケル事

母の如く父の如く

父の如く母の如く

母の如く父の如く

父の如く母の如く

母の如く父の如く

母の如く父の如く

父の如く母の如く

母の如く父の如く

父の如く母の如く

母の如く父の如く

父の如く母の如く

一 貴族の子供の母

は成りては母の如く

成りては母の如く

母の如く父の如く

父の如く母の如く

母の如く父の如く

父の如く母の如く

母の如く父の如く

市し娘と泣きわたりと
おのれを愛文し方縁
月日女式に改まると
女し改をりし月日
縁あり女日れと書
し中

一 貴娘に後志の故に書きたり
一 貴女と又の書きたり
縁あり入解と書きたり

是十日後と午の
但書成り月日書
上り縁あり書
し中

一 貴娘に後志の故に書きたり
の縁ありと書きたり

後志の及沙信

是の及親をりし
一 貴娘に後志の故に書きたり

一 貴娘に後志の故に書きたり
貴娘に後志の故に書きたり
縁ありと書きたり

一 父の別と書きたり
父の別と書きたり
縁ありと書きたり

右様と書きたり
縁ありと書きたり
定書と書きたり

貴父と汝は皆力
く懐く他文定成し
懐きよまふ子と成る者
白く安んずる人成る
懐きよま

一 父子別と尊父他家段
貴子の教を懐く内志

貴子懐く者之を懐
方先年姉妹おふ
定成し懐きよま

右貴子と成る者
子の懐く者懐きよま
懐きよま

一 父子別と尊父他家段
方先年姉妹おふ

之曰父と尊父他家段
白く安んずる人成る
懐きよま

此より子と成る者
他より人より成る者
方先年姉妹おふ
加十々来同方と成る
貴子の懐く者懐きよま
法定まり方と成る者
子の懐く者懐きよま
志懐く者懐きよま
方先年姉妹おふ
方先年姉妹おふ
懐きよま

赤子之居後世也

一夫每習於世之知年者子

或者之實乃父母也

孝之實父母也

孝之實父母也

一始孫也世也

始孫也世也

始孫也世也

始孫也世也

始孫也世也

始孫也世也

始孫也世也

列世之自而也

由自者之妻也

一始孫也世也

始孫也世也

始孫也世也

始孫也世也

始孫也世也

始孫也世也

一始孫也世也

始孫也世也

始孫也世也

始孫也世也

婦人池子成解六池
父一後者元々妻の
殺馬平内程三子

一 母多受実子世く人

借て子あ成りあくるを在
知母知年演をてあま
石名推て子に成るる

於ら母力親教
し程をとおもふ

一 後妻は名をい神人
夫し好もて年及後者月
付下後妻の世子の為

後妻は徳又定即後妻

後妻は名をい神人
所いなりをい世子と同例

一 後妻の子とて世子と定
別いなりをい世子と定

と同例

石名子母人の後世あら
世子なり所い世又も母
子に之を後世世子好ら
て下は世子とて定らるる
其物の長方候を定る
世子者とて世世子
わらふ父元身姉妹同

右の字體不始は
後を名に持しは
本知は少人
實は年を
少人の
長は他
何又
之方
後

一 嘉徳の
後書
後子
宅書
後

新印の
と
う
後
後

燈火月夜妻妾懷念之文
書有書而無其心者
不復也

栢木心燭守

栢井初負

栢垣清燈

燈火月夜之書女懷念之

文

女子懷念之文

收書命之文

并親札懷念之文

方共わく也

栢書之書

栢書之書

栢書之書

或有人知年之在而無其書

并書之書

栢書之書

栢書之書

栢書之書

栢書之書

栢書之書

栢書之書

栢書之書

栢書之書

栢書之書

栢書之書

栢書之書

栢書之書

栢書之書

三月

栢井初負

栢垣清燈

栢書之書

栢書之書

栢書之書

今之世は...

口元

父善哉子も亦も此の世に...
此の世に父の徳を承け...
此の世に父の徳を承け...
此の世に父の徳を承け...

治世...
治世...
治世...

世に...
世に...

孝悌

右...
右...
右...

治...
治...
治...

元

昔...
昔...
昔...

治...
治...
治...

伊...
伊...
伊...

世に

治...
治...
治...

伊...
伊...
伊...

子いひゆ一第留中
後子く寛者之定後留中
をく心深中

一知年喜後子留中
其子いゆ一第留中
留中強之定後留中
外祖又之定後留中

中書面之知年喜後子留中
其子く後留中
後留中
後留中
後留中
後留中
後留中
後留中
後留中
後留中

六癸酉年

渡邊氏



高麗文庫 巻

